



自作の衣装でポーズを決める生徒たち—一宮市民会館で

自作の衣装でポーズ

一宮高生が卒業研究発表

一宮市の一宮高校ファッション創造科の卒業研究発表会が二十四日、同市朝日の市民会館で開かれ、三年生が自作の着物やドレスを着て、これまでの成果を披露した。

テーマは「玉響たまびし物語」。「玉響」は「少しの間」を意味し、「わ

ずかな時間に三年間の集大成を精いっぱい演じよう」と願いを込めた。

ファッション造形コースの二十六人は、授業で制作した浴衣やジャケット、ワンピースなどを披露。子どもの文化コースの十二人は脚本や舞台道具を自作し、人形劇「浦島太郎」を上演した。

最後にウェディングドレスや振り袖、打ち掛けなど華やかな衣装が登場。生徒自ら舞台上でポーズを決めると、会場から大きな拍手が送られた。

(山野舞子)